

令和7年2月 智頭町子ども・子育て会議 会議録

開 会 年 月 日	令和7年2月25日
開 会 の 場 所	智頭町役場 第一会議室
開 会 時 間	午後6時30分
出 席 委 員	大藤委員、林委員、山崎委員、安住委員、田中教育長、初瀬参事、奥村園長、國岡課長補佐、高垣所長、小坂コーディネーター、福安部長、西村委員
欠 席 委 員	－
事 務 局	竹内課長、木下主任、大空主事
会 議 日 程	
事務局	会長選任
田中教育長	(1) 開会
事務局	(2) 会議の趣旨説明 子ども・子育て支援法に基づき子供の成長と保護者を支援するため、子育て家庭の状況やニーズを把握し、子育て支援に必要な施設の確保や施策を実施するために計画を策定してる。5年を1期とし国へ提出が義務付けられており、本会議で計画案の承認を得ることができれば国へ提出することができる。
事務局	(3) 第2期計画 確保方策等の報告 ①公立保育所に通うすべての園児の保育料無償化を行うことにより、高い評価を得られた ②アンケートより親子で集う屋内外スペースがないことへの要望が課題として残った ③量の見込みはおおむねクリア ④ クリアできなかった項目 ・ 2号認定の認定こども園及び保育園 令和3年度に2人、4年度に3人の園児数が確保方策より多かった →保育士の配置基準上、支障をきたすものではないため対応できた ・ 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター） 延べ利用者数が令和2年度の確保方策2,000人に対し2,413人の利用 →利用者に対する職員や施設の配置基準を設けていないことから、既存1施設で対応できた ・ 子育て短期支援事業（ショートステイ事業） 現時点で6年度の延利用人数が確保方策量を8人上回っている →2家庭が複数回利用しており、どちらも以前鳥取こども学園に入所さ

	れていた実績があるためショートステイで受入が可能となった
事務局	(4) 第3期計画案の概要説明 ・量の見込みと確保方策算出のためアンケート調査を行った ・基本目標と施策の展開を見直した ・各事業の量の見込み、確保方策について説明（すべて対応可能）
安住委員	出生率が非常に低いが子育て支援に魅力があれば人口増、出生率増に繋がるはず。そのあたりの分析はどうなっているのか。奈義町は出生率も高く手厚い子育て支援を行っている。
→事務局	本計画では量の見込みを算出し、クリアすることを国から求められているのでその点について言及はしていない。5年後の次期計画に向け検討する必要はある。
山崎委員	こども家庭センターについて説明を求める。
→高垣所長	母子保健分野の子育て世代包括支援センターと福祉分野の児童育成拠点事業の二つがあり、一緒になってこども家庭センターが設置され、妊娠期から大きくなるまでの相談事業集約を行う。令和7年4月開設を目指して準備している。
林委員	アンケートを見ると公園への要望が多く、私自身も昔からこのことへの意見を周りからよく聞いている。いまだに声があがっているということは、まだ改善余地があり出生率に繋がるのではないかな。
奥村園長	以前、保育園の保護者からただ広くて遊具があるだけの公園でなく、いつ行っても誰が行っても誰かと交流できるような場所が欲しいと意見が出た。行けば知らない人だけど誰かと繋がれる、孤立しないということが安心感に繋がるようだ。そういった観点からも親子が子育てしやすい政策を求めたい。
西村委員	量の見込みに対する確保方策がクリアできるのは理解できた。逆に今あるキャパシティとしてどれぐらい余剰があるのか数字を出すことも必要なのでは。例えばあと何人受入が可能か、そこが見えてくるとそこにどんな手段でどんな人を入れていくのか。余っている部分に保育園留学で一時的に都会の子供たちが智頭町に滞在など、逆転の発想で子育てをする人たちが賑やかいい気持ちで前向きになれるよう雰囲気醸成することに繋がるのではないかな。

安住委員	アンケートは未就学児世帯のニーズしか出てないので、独身者のニーズを聞いてはどうか。今後智頭町で結婚して子育てしたいと思うためにはどのような事業が必要になるのか調査してもよい。
小坂コーディネーター	育カフェで子供たちを遊ばせながら保護者が育児の相談などをして活気づけばいいと思うが、いつも同じようなメンバーが集まっている。周知不足なのか趣旨が保護者に伝わっておらず、せっかくのイベントが機能していない。何故集うことが良いのか、何に繋がるのか目的を伝えるべき。
田中教育長	周知はできているのか。
→事務局	マチコミによる周知でイベント情報は行き渡っているが、自分たちだけのコミュニティがあり、育カフェで集まる必要性を感じていないのがアンケートから分かった。忙しさからそのようなイベントに出向かない保護者もいる。周知の継続をしながら、調査結果から今後継続すべき事業を精査する。
田中教育長	何故集うことがいいのか。方法だけでなく目的を明確にする必要がある。
西村委員	保護者の子育てニーズは変化しているように感じる。今の保護者は昔と全然ニーズが違う。家事は全自動化して時間がとにかく欲しいと聞く。働き方はどうであるか、メリットは何であるか、当事者たちが必要としているものを聞き取ることで別の視点が生まれるのでは。
田中教育長	大藤委員は改善してほしい点などあるか。
大藤委員	今の智頭町の子育て政策に不満や改善要望は特にない。
奥村園長	智頭町は子育て支援事業の部署が教育委員会と福祉課に分かれているので不便な点があると感じる。境港市に設置予定の保育コンシェルジュは相談内容を各部署に繋ぐと聞き、智頭町でもそのような連携が必要と考えていた。7年度に開設されるこども家庭センターがうまく機能することを願う。
高垣所長	子供を育てしやすい環境も必要であるが、子育て支援と保護者の就労はセットで、町の施策として検討すべき。奈義町は就労もセットで考えており、出生率を上げるためには周辺の環境を整えることが必要と考える。
小坂コーディネーター	時代の変化とともに保護者のニーズも変わっているなので、まずはそこを探り新しい視点から出生率に繋ぐようにしたらよい。

山崎委員	民生委員で町内の公園やトイレの場所を記載した子育て支援マップを作り、1歳半健診時に配布している。作成時に実際に各場所を見て回ったが、小規模な遊び場は多くあっても手入れされておらず、胸を張って案内できる場所ではなかった。既存のものを手入れして利用しないともったいないと感じる一方、大規模なものを一つの場所に集約することも大事なのでは。
田中教育長	私もこのマップを見たことがあり良いものだと思う。子供も使用できるトイレの場所を把握したいという要望もPTAから出たこともある。その他に伝えておきたいことはあるか。
福安部長	各事業がニーズに合っているのか、どんなメリットがあるか理解促進をはかりし、保護者にわかりやすく訴える。 どうしても町内の小さな公園を自慢することができないのが現状。大きな公園が欲しいのが若い人たちの総意になる。
田中教育長	それでは計画案の承認を求める。→承認 保護者のニーズ把握、量の見込みだけでなく智頭町にどれだけのキャパシティがあるのかを含めながら今後の取組みで検討し、それを委員の方にそれぞれの立場で広めていただくとありがたい。 では承認を得ることができたので閉会とする。
	午後7時30分
上記会議の次第を記載して、その相違ないことを証明するためにここに署名する。 令和7年3月7日 委 員 委 員 整理した者 木下 香梨	